



学校教育の場でも…「足立尚也選手を題材とした道徳の授業」

東山中学校を卒業し、実業団で活躍している足立尚也選手。そんな足立選手を題材とした道徳資料を協会員の大坪稔先生が作成しました。実際に東山中学校では、自分達の先輩の生き方を通して学習する授業が行われました。今回はそんな道徳資料と授業の様子を紹介したいと思います。

※東山中学校 教頭通信 H27.8.21 にて掲載された内容です。

《厳しく あたたく 粘り強く》
迷ったときは前に出る！

本校で力を入れている郷土教育ですが、私が去年取材したバスケットボール選手の「足立尚也さん」について、私なりに道徳資料を作ってみました。第一講ですが読んでみて下さい。

背番号9 バスケットボール選手 足立尚也選手

足立尚也選手。32歳。バスケットボール選手。岩滝小学校・東山中学校を卒業し、県内屈指の名門岐阜農林高校へ進み主力として活躍。現在はアイシンAWアレイオンズでプレーしている。彼がバスケットボールと出会ったのは中学1年生の時。友達に誘われ「何の気なし」にバスケットボール部に入部した。彼のセンスは群を抜いていた。特にシュート力は素晴らしく、中学3年生のときにNBA選手が高山に来た時の3ポイント対決では大観衆の前で10本連続で決めて、NBA選手をうならせたほどだ。



そんな彼が大きな壁にぶち当たったのは、愛知学泉大学2年生の時のことである。彼自身も鳴り物入りで入学したのではあったが、周囲の選手もまた全国で活躍してきた逸材ばかり。徐々に自分の無力さを感じていた。特にその年の1年生は全国上位高校のエース級の選手も入学してきていて、彼は伸び悩んでいた。練習ではいじめのように、毎日こてんぱんにしごかれた。先輩たちからも干され、チーム内には彼のポジションはなくなっていた。夏の暑い日、尚也選手は監督からもしごかれ、倒れて救急車で病院に搬送された。「こんなきつい練習してなのに、試合にもまったく出られん！俺はいったい、何しとるんや…。」彼の憤りは限界へと向かっていった。

ある日、足立選手は父親に電話をかける。「俺、バスケをやめたいんや…。」
「お前、何のために行ったんや！」
「申し訳ないと思ってる。でも、やめようと思ってる…。」
そんな会話が30分ほど続いた。最後に父が言った。
「お前の好きなようにしろ…。」
尚也選手はだまって、電話を切ったのだった。

投げやりになった尚也選手は、バスケットボール部では禁止されていたアルバイトを内緒で始めたのだった。いや、「バスケをやめたい」などと言い出した自分に、仕送りしてもらっていることへの申し訳なさや後ろめたさからの行動だったのかもしれない。ラーメン屋

でのアルバイトは、今まで働いた経験など無い尚也選手にとっては新鮮だった。とはいえ、深夜の労働。疲れて途中で寝てしまうこともしばしばあったが、尚也選手は自分なりに一生懸命働いたのだった。初めてもらったアルバイト代。初めて自分で働いた賃金を手にした彼が思ったこと。それは、お金の“重さ”だった。「1万円稼ぐのに、こんなに働かなければならないのか…。一ヶ月10万円の仕送りをしてくれる両親は、その何倍も働いて、俺に送ってくれているのだ。俺は逃げ出して、いいのか！」
バスケから逃げ出したいと始めたアルバイトではあったが、逆にお金の価値を肌で感じ、彼を奮い立たせたのだった。

「よし、試合に出れるようになってやる！他のヤツらに勝てるのはシュート力だけだ！」
そう考えた尚也選手は、徹底的にシュートを鍛え直すことにした。筋トレトレーニングはもちろん、練習が終わってから一人残ってシュート練習に没頭した。ボール拾いをしてくれる人などいない。自分でシュートを放ち自分で拾いにいく。その動きもトレーニングだと思いながら、丁寧にシュートを打ち続けたのだった。そんな彼の努力が実り、3年生から少しずつ試合に出る機会を与えられ、4年生ではついにスターティングメンバーに名を連ねるようになっていた。

2013年9月。彼は高山市で行われた国民体育大会に岐阜県代表選手として出場した。地元開催のプレッシャーを跳ねのけ、見事に優勝を飾った。彼はスターティングメンバーではなかったがベテラン選手としてチームを支え、ピンチの場面では得意の3ポイントシュートを決めチームを救った。彼は優勝直後にこう言った。「高山に恩返しができるよ！」

彼がアレイオンズで付けている背番号は“9”。なぜ“9”なのかを尋ねてみた。「親父の名前が“八兵衛”なんです。だから、親父を越えたいと思って“9”にしたんです。まだまだ越えられませんがね。」



足立尚也選手。32歳。今日もシュートを打ち続ける。

※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※

道徳の時間としては、主題は「あきらめない心」。大学2年生の頃の彼の心の弱さに共感させ、なぜ彼が奮起して頑張れたのかを考えさせたいと考えています。先生方からのご指導、宜しくお願いします。

編集後記

先日、中学校時代のバスケット部の仲間と久しぶりに話す機会がありました。その中で「中学のクラブチームっていうのが今あるの？」とクラブチームについて聞かれ、説明すると「今の子ども達はいいよな。俺等々ときなんか部活以外は中山の外のゴールでしかできなかつたよな。本当にいろいろなことがあってうらやましいわ。」と話していました。しかし、「でも中学のバスケット部ってそんな少ないの？なんか俺等との

きからは信じられんしかわいそうやな。」とも話していました。時代と共に日本のバスケットボール界や社会も大きく変わってきています。しかし、今も昔も変わらないこともあると思います。「バスケットボールが好きだ！」「もっとやりたい！」と思っている子ども達のためにできることを考えていきたいと思いました。(Y.Y)

TABBA

高山市バスケットボール協会

広報誌

2017-05号 (Vol.016)

TAKAYAMA AMATEUR BASKETBALL ASSOCIATION
飛騨高山のバスケットボールを盛り上げよう!
編集・発行：高山市バスケットボール協会
tabba.jp

高山市バスケットボール協会は
賛助会ははじめ協会を支えてくださる皆様のお力添えをいただきながら、
地方が疲弊化する中で若者にバスケットボールを通じて
夢と誇りを持って頂き、
この地域を支える大きな担い手としての存在を希望しながら
これからも協会活動に邁進していきます。

中学校 高山市ジュニアバスケットボールクラブチーム

昨年度より始まった高山市ジュニアバスケットボールクラブ。市内の中学生を対象に毎週月曜日と木曜日に練習を行っています。3年生を中心としたメンバーで参加した岐阜県ジュニアバスケットボール選手権では、高山市バスケットボールクラブAが見事優勝しました。また、東海ジュニアバスケットボール選手権でも優勝し、クラブチームの東海NO.1のチームになりました。クラブチームでは、市内の中学生が学年男女関係なく活動しており月に1回は全員でゲームを行うなど楽しく練習をしています。クラブチームの練習を見ていると本当に子どもたちが楽しく生き生きと取り組んでおり、こんな場があることが素敵だなと感じます。2年目の今年もさらに盛り上げていってほしいですね！

第24回東海ジュニア(中学生)バスケットボール選手権大会組合せ

第1日目 12月17日(土) <男子予選リーグ> 雄踏総合体育館

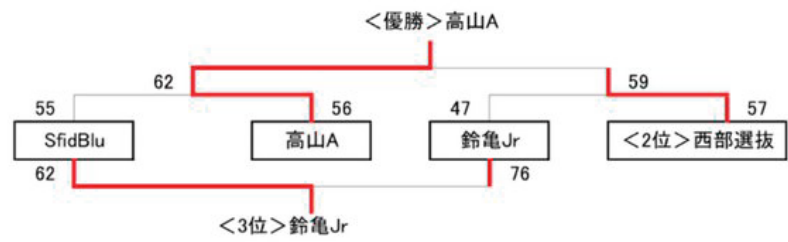
Aブロック	SfidBlu	名張	RED DEMONS	順位
SfidBlu		○ 68-48	○ 59-49	1
名張	× 48-68		○ 55-53	2
RED DEMONS	× 49-59	× 53-55		3

Bブロック	高山市A	中部選抜	高杉BD	順位
高山A		○ 58-53	○ 52-40	1
中部選抜	× 53-58		○ 46-42	2
高杉BD	× 40-52	× 42-46		3

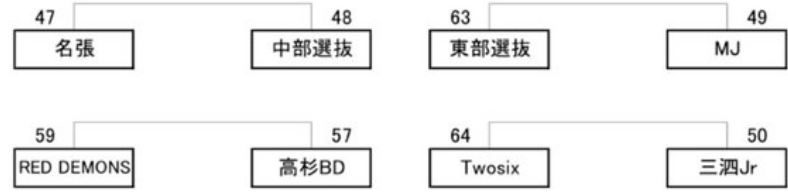
Cブロック	鈴亀Jr	Twosix	東部選抜	順位
鈴亀Jr		○ 82-40	○ 58-48	1
Twosix	× 40-82		× 61-63	3
東部選抜	× 48-58	○ 63-61		2

Dブロック	西部選抜	MJ	三酒Jr	順位
西部選抜		○ 78-46	○ 57-40	1
MJ	× 46-78		○ 73-55	2
三酒Jr	× 40-57	× 55-73		3

第2日目 12月18日(日) <男子決勝トーナメント> 雄踏総合体育館



<男子交歓試合> 舞阪総合体育館



第6回岐阜県ジュニアバスケットボールクラブ選手権大会 結果

	<男子の部>	<女子の部>
優勝	高山市バスケットボールクラブA	MJバスケットボールクラブ
準優勝	MJバスケットボールクラブ	ハシマグレートセイヴィアーズ
第3位	レッドデーモンズ	東濃EAST
第4位	下呂Jrクラックルズ	本巣ジュニア

優秀選手（男子）

チーム	氏名
高山市バスケットボールクラブA	河野真秀
高山市バスケットボールクラブA	本田航琉
MJバスケットボールクラブ	伊藤圭吾
レッドデーモンズ	安藤聖
下呂Jrクラックルズ	黒木優希

優秀選手（女子）

チーム	氏名
MJバスケットボールクラブ	磯竹すず夏
MJバスケットボールクラブ	三宅里佳
ハシマグレートセイヴィアーズ	小島れん
東濃EAST	武井美悠
本巣ジュニア	日比野有羽



選手代表インタビュー

新人大会高山市チームの活躍！

1月に行われた岐阜県高等学校バスケットボール新人大会では、斐太高校男子がベスト16、高山西高校男子が5位、高山西高校女子が3位と高山市のチームが活躍しました。今回は各チームの代表の生徒に新人戦を終えてとインターハイにむけての意気込みを書いてもらいました。

高山西高等学校 藤井 俊貴



新人戦を終え、チームとしての課題が浮き彫りになりました。みんなで自分の思いを話し合い、試合に出ることの責任を再確認し、チーム全員で勝つという思いを一つにしました。練習の質をよくするために全員で声を出すこと、切り替えを早くすることなどチームとしてこだわっていくことをまとめました。今はインターハイに行くことを目標にして練習に取り組んでいます。

新入生も入学し、留学生のドラムネも加わりました。プレイスタイルも大きく変わり、最初は戸惑いもありましたが、自分の役割を考えてプレイすることができました。大きな戦力が加わり、チームの思いもより堅いものになりました。インターハイ予選まで1ヶ月をきり、良いムードを作りながら練習に取り組み、気持ちを一つにして大会へ向かっていきたいです。

高山西高等学校 川原玲奈



私たちは、全国大会出場という目標のもと日々の練習を頑張っています。現在は岐阜女子高校が県内でも強豪であり、全国でも優勝に近いチームです。ここ2年間は岐阜女子高校の結果がウィンターカップに反映されるため、結果次第では岐阜県よりも1チームがウィンターカップに出場できます。その為、目標を達成するためにインターハイ予選では優勝に絡み東海に出場、その後のウィンターカップも視野に入れチームに勢いを付けられるようにチーム全員で声を出し合って、笑顔で頑張ります。

斐太高等学校男子 奥田 庸



1月の新人戦では、2回戦で強敵美濃加茂高校に敗れてベスト16という満足のない結果に終わりました。試合は、序盤から相手のペースで進められてしまい県のトップレベルのチームと自分たちの差を感じました。

インターハイ県予選ではベスト4を目標に3つのことを意識して練習に取り組みたいと思います。1つ目は、チーム内で声をかけあうこと。2つ目は、ディフェンスから攻撃のリズムを作ること。3つ目は、自分たちのペースで試合を進めること。

以上3つのことを意識し、他校に比べると少ない練習量の中ではありますが、自分たちで立てた目標に少しでも近づけるように活動していきます。